

■最近の話題を考える“知財NEWS”知財トピックス(2018.5)

国際特許出願の発明者のうち、
女性が入った出願が3割を超える

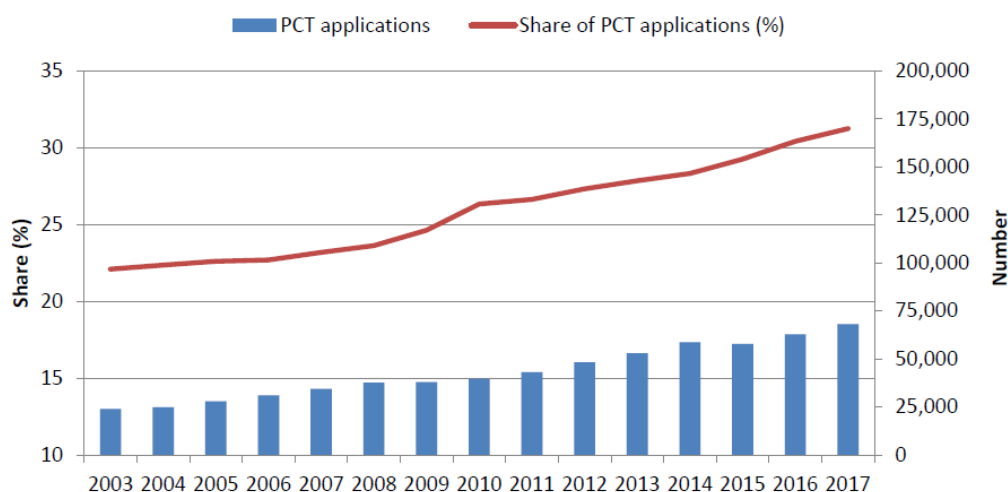
特許業務法人 前田特許事務所
弁理士 大石憲一



今回の知財ニュースは、世界知的所有権機関(WIPO)が先月発表した女性の発明者に関するものです。WIPOは、2017年の国際特許登録出願のうち、発明者に女性の名前が入っているものが、31%だったと発表しました。

http://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2018/article_0003.html

PCT applications with women inventors



出典: World Intellectual Property Day 2018 Celebrates Women's Accomplishments: New WIPO Figures Show Highest-Ever Rate of Women Inventors, but Gender Gap Persists

上図のように、2007年には、女性の発明者の割合は23%だったものの、バイオ技術や医薬品の分野で、女性研究者の進出が目覚ましく、2017年には31%になったそうです。こうした結果について、WIPOのガリー事務局長は、技術革新における女性の貢献は「確かな傾向だ」と称賛する一方、まだ男女格差はありと指摘しています。

しかし、私は、現在の理系分野における女性の割合(3割未満)から考えると、こうした発明者の女性は、かなり頑張ったと思います。

今まで企業内等で発明発掘等を行った私の経験から言うと、男性と女性とで「発想のポイント」が違うように思います。男性の場合は、大胆ですが、実現性が薄い発想。女性の場合は、実現性が高いものの、緻密な枠に捉われた発想。何れの発想も、一長一短であり、優劣をつけることは難しいです。

よって、これから、発明の質を高めていくためには、女性の発明者の力も活用し、男女それぞれの良さを組み合わせて、より良い発明を産み出して行くことが求められると思います。

こうしたことも含めて、私は、これから益々、女性の発明者が増加して、知財業界を盛り上げて行って頂ければと思います。

以上